Ⅳ－48

来訪者としての欧米人から見た盛岡の原イメージ

岩手大学工学部　正会員　安藤　昭
岩手大学工学部　正会員　赤谷　隆一
岩手大学工学部　○学生員　川上　浩一
岩手大学工学部　学生員　上田　亨

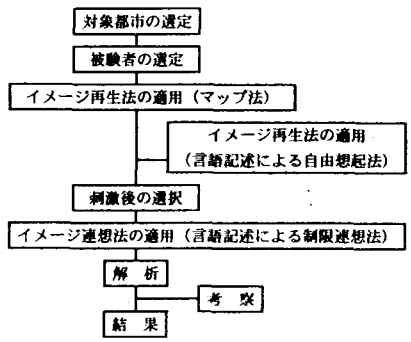
1. はじめに

近年、わが国には国際化の波が押し寄せ、外国人 Touristも漸次増加してきており、国際観光の受皿としての対応が必要になってきている。また、Soft Tourismという概念を意識した地域環境整備、いわゆる地元の地域風土を考慮にした環境整備の必要性も高まってきている。

本研究は、「'93 世界アルペン」のような国際的イベントが行なわれ、近年、欧米からの Touristが漸次増加してきている盛岡を対象に、我が国と異なる風土・文化のもとで育ち、盛岡の魅力を新鮮な視点でとらえられることができる「盛岡市とその近郊に在住する欧米人」を被験者に選定し、Tourist からみた場合の盛岡の原イメージを抽出することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究は、図－１に示すフローチャートにしたがって進められた。まず、マップ法によって都市記憶素材の採集を行ない、空間的イメージを把握する。次いで、言語記述による自由想起法によって言語を基礎とする都市の意味的イメージを把握した。
そして、マップ法と自由想起法の調査結果より盛岡のイメージを求める上で重要と思われる要素を抽出し、制限連想法のための刺激語を選択する。この刺激語を用いて、言語記述による制限連想法を行ない、各要素のイメージウェイト、及び連想因果図を求める。最後に、これらの結果より連想階層図を作成し、各要素間の連想パターンから盛岡の原イメージを抽出する。



図－１　研究のフロー

なお、調査はすべて直接面接法で行い、被験者の個人属性を表－１に示した。

3. 結果及び考察

制限連想法の結果からイメージウェイトを考慮した連想階層図を描きだし、これを盛岡生まれ盛岡育ちの住民に行なった調査結果と比較して、図－２に表した。

盛岡生まれ盛岡育ちの住民に行なった結果と比べると、イメージウェイトが高い要素は「北上川」「岩手山」を除き、より一層ウェイトが上昇し、イメージウェイトが10前後の低い要素はより一層ウェイトが下降しており、要素の階層化が強化されている。個々の要素を見ると、盛岡市民の調査結果に比べイメージウェイトが非常に高くなっている要素は「岩手公園」「開運橋」「繋温泉」である。「岩手公園」は、盛岡の名所として挙げられる「石割桜」、そして、伝統行事としての「チャグチャグ馬っこ」等との結びつきが新しく出てきたことにより、イメージウェイトが高くなった。「開運橋」は、盛岡駅の正面に位置する北上川にかかる橋であり、岩手公園まで抜ける大通りへの玄関として、すなわち、盛岡市の中心市街地への玄関として、外国人 Touristからイメージされ、ウェイトが高くなっているのではないかと思われる。これは、開運橋と岩手公園の想起関係、イメージマップでのこれらの要素の再生率の高さにも現われている。「繋温泉」は、御所湖や周辺の温泉街と共に自由想起法での再生率も高くなっており、日本に数多く点在する温泉地に対して、外国人 Touristが強い関心を示していることがわかる。

次いで、イメージウェイトが上昇している要素に、「チャグチャグ馬っこ」「南部鉄器」などの伝統的な祭り・文化としての要素がある。特に、祭りに関しては「チャグチャグ馬っこ」以外にも夏の代表的な祭りである「さんさ踊り」などが、自由想起法で多くイメージされている。

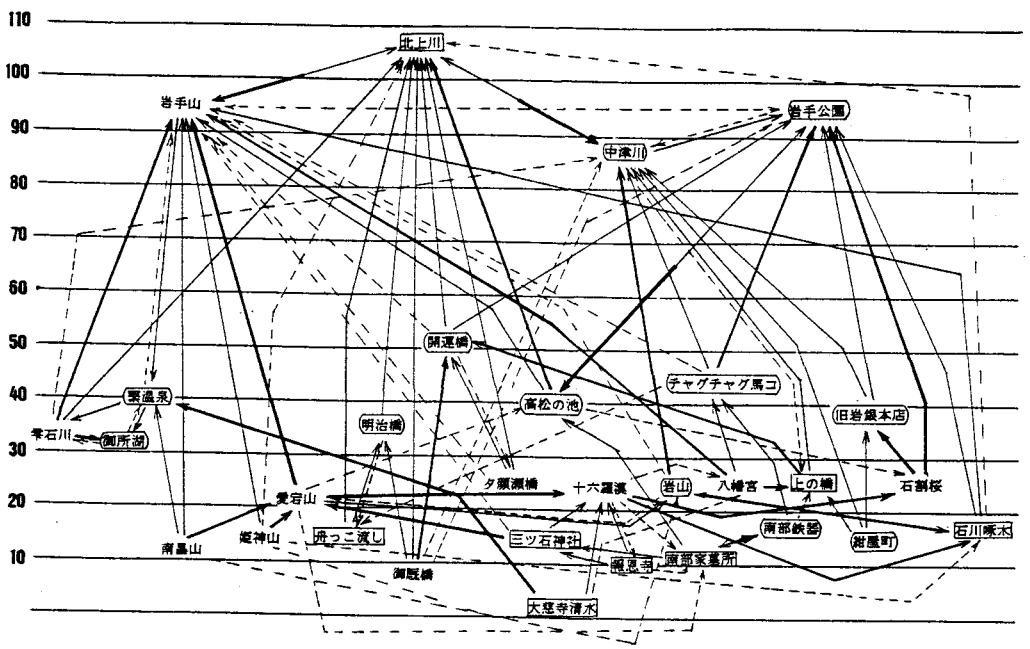
また、岩手公園、中津川、旧岩手銀行本店、上の橋などに着目すると、要素の想起関係が岩手公園から始まるループになっており、盛岡の観光コースのひとつとして注目できる。

新しい結びつきで注目されるものに「石川啄木」と「岩山」がある。これは岩山展望台に石川啄木の銅像があるための結びつきであり、盛岡生まれ盛岡育ちの住民の調査結果からは結びつきが認められないことからも、史実に基づかない作られた観光の想起関係であるといえる。

また、「岩手山」と他の要素との想起関係が減少しているが、盛岡生まれ盛岡育ちの住民の調査の場合では、岩手山は信仰の対象であり、盛岡に住む市民としての特別の思い入れが想起関係に影響を及ぼしている結果と思われる。

表－1　個人属性

国名＼性別	男	女	計
アメリカ	12	8	20
カナダ	4	4	8
オーストラリア	0	1	1
ニュージーランド	1	0	1
アイスランド	0	1	1
計	17	13	31



※ ⟶ は、欧米人のみの想起関係、- - ⟶ は、盛岡市民のみの想起関係、⟶ は、共通の想起関係である。また、盛岡市民を基準としたときのイメージウェイトの上昇、下降をそれぞれ ▭，▭ として図中にしるした。

図－2　連想階層図

参考文献　1）　安藤　昭，欧米人から見た東北地方の魅力について　――国際化の時代に対応した地域環境育成に関する基礎的研究――　「環境情報科学」　20-3　1991

2）　戸村　道子，城下町起源の都市盛岡の風土分析　――日本の都市像に関する景観工学的研究――　「土木学会東北支部技術研究発表会講演概要」　VI－32　1993